

# 今支館・分館では

## 『囲碁・将棋大会』

— 川辺支館 —

2月11日(日)午前9時より、大杭公民館で第33回囲碁・将棋大会が開かれました。最近将棋の参加者がおらず、囲碁のみが恒例になっています。当日は雪の予報でしたが、雪は降らず穏やかな一日となり、参加者は7人で試合は総当たり戦で行われました。参加者の年齢はだいたい70代以上で、「若い人が参加する」といいね。」という声も聞かれました。

最年長という90歳の方が、70歳の強豪を見事に打ち破るといふ快挙もありました。別の対局では、逆に負けてしまった高齢の方が、「最近の若い人は敬老精神がなくて困る」などと冗談を言い、



笑わせる一幕もありました。試合は終始和やかに進み、お茶やみかん、昼食も出て午後3時頃終了しました。

### 【結果】

上ノ平区 望月 昭一

優勝	望月 光男
準優勝	望月 昭一
3位	山根 悦郎



## 『囲碁大会』

— 北大井支館 —

第40回を迎えた囲碁大会は3月18日(日)出場者17名が参加して柏木下区公民館を会場に開催されました。40年もの間北大井支館内で継続されてきた事業で、根強い碁の愛好者が多いことの証でもあると思います。

午前9時に集合し、冒頭に竹内支館長から開催の挨拶があり、審判長に支館内最高段位者(7段)の中村信氏を選出して対局上のルール等の説明を受けて、最初の対局者を抽選で決め早々に対局が始まりました。

出場者の皆さんはお互いに顔見知り。開始直後は世間話に花が咲くなど賑やかな雰囲気でしたが、碁盤に白と黒の碁石が並び進行するにつれ会話が少なくなると緊張感と熱気が充満する会場の様相に変わっていききました。

私は碁には全く無縁な者なのですが、将棋と比べると思考する時間が短く次々と碁石が打たれていくのに驚きました。概ね1時間で勝敗の決着がついていったように思いますが。審判長の中村氏に伺った

ところ碁の魅力は「掛け引き」と「深み」にあるとのこと。重要なことは「感性」が六分「読み」が四分だと話されていました。

対局は、昼食をはさんで各人が5局を戦い、午後3時30分終了となりました。出場された皆さんの表情は十分満足された様子で会場内は和やかな雰囲気になり包まれました。

その後、館内の別室で懇親会が催され成績発表があり、竹内支館長から表彰状と記念品が授与されました。優勝者の小山氏は「これまで、あまり勝ったことのない人に勝て今日は波に乗れた」と語っておられました。5時30分懇親会も盛会の中、打ち上げを終了しました。

早春の1日でしたが、碁を愛好する人達が存分に楽しみ親睦を深め合った囲碁大会でした。

編集委員 竹節 正勝

【結果】

優勝	5勝	小山新一
準優勝	4勝1敗	甲田利男
3位	4勝1敗	小山宏一